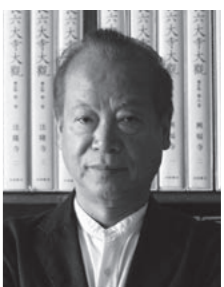


保存すべきものは？

— 歴史的建造物の保存・活用で問われていること —

明治村館長
早稲田大学名誉教授
中川 武
Takeshi Nakagawa



日本・エジプトでの保存体験

日本の歴史的建造物は、住宅でなくても後世に増改築される例が多い。その改変が特別に価値が高いものでない限り、建設当初の原型に復原修理して保存する場合は圧倒的に多い。建築は、その時代精神の証人の役割が期待されるため、自ずと、材料、環境なども含めたオーセンティシテイ（真正性）の保存が重要視され、希少性Ⅱ傑出した価値とみなし、当初復原が絶対視される傾向があった。一九八〇年前後から古代エジプトミニピラミッドの建設実験やフアラオの宮殿発掘調査に参加した。ツタンカーメン王墓の発見やピラミッド建設技術の解明といっ

た、前世紀から継続されてきたエジプト学の伝統を色濃く保持していた。これはあまりに偉大な人類の宝がまだ広大な砂漠に埋もれていると考えられるエジプトの特徴でもあろうが、発掘

遺物の博物館展示や新発見の墓の開放などのほかに、発掘遺構の野外展示も始まっており、観光展示のための保存という考え方が盛んに要求された頃であった。エジプトといえども、発掘した遺物を保管しておけば良い、ということでは済まされない。将来の復元再建のために保存することが、その復元も含めて義務化されるようになってきたのである。お宝を掘り当てれば、万歳というわけにはいかなかった。しかし、エジプトでは日干しレンガ遺構の保存

明治村における保存

博物館明治村の構想は、遠くなる明治への懐旧の念からのもので、戦前に始まるが、実現したのは一九六〇年前後からの高度経済成長により、古い歴史的建造物の取り壊しが相次ぐと同時にそれらを惜しむ声も高まったためである。消失の危機にあったものを、明治村建築専門委員会の調査と評価の上で移築し、現在まで国の重要文化財一〇件を含め約六〇棟の文化財建造物と乗物、家具、歴史資料などを保存展示している。開館当初から好況が続いている間は入場者も多かったが、経済の停滞と共に減少の傾向にある。多くの建物を文化財としての基準に応じて修理保存していくためには、相当の費用がかかり、多くの方に来場していただかねばならない。元より文化遺産である限り、建物は元の場所に保存されることがベストである。たとえ凍結保存でも、その場所に保存することが望ましいものもあるが、建築はその時代の空気感の

都市の佇まいによってそのことを感じ取れるのは明治村において他にはないだろうことを、私たちは自負し、その使命を自覚している。即ち、明治村で、明治の魂に直面していただくことによって、歴史的建造物はその場所に保存されるべきだ、という想いを皆さんに伝えていきたいのである。

グローバル現代における保存

この夏、中国雲南省の西端の古都である、大理、麗江、香格里拉を歩いた。古城だけでなく、周辺の古鎮も含めて、中国全土から驚くほどの多勢の観光客が押し寄せていた。部分的に遺構は残っているものの、地震や大火事のために失われ、古様式に再建された新築古城であり、大部分は土産屋とレストランなどの観光施設として使用されていた。これらを見て私は二〇〇八年北京オリンピックスタジアムの「鳥の巣」を思い出した。一九七〇年大阪万博へ日本全国津々浦々から押し寄せたように、オリンピック終了後のカラの施設に中国の人民は殺到した。今彼等は、見かけだけとはいえ、古い街を目指している。近い将来、中国人民は、あるいは世界の人々はどこへ行くのか。本物の文化遺産のオーセンティシテイを欲するに違いないと私は思っている。

とつても編年は難しい。中国語による公記録や仏・植民地時代の古写真などはあるが、残存した遺構が少ないうえに技術文書はない。現代の大工もとても器用で彼らが見よう見まねでつくってしまう伝統様式と遺構の間に差異を見つけてるのは難しい。結果的に腐朽したオリジナルな部材を人工木材などで補強したりしながらなんとか保存しようとするより、新材に変えたほうが、という考え方に陥りやすい。一方アンコール遺跡では、国際協力による救済が模索され、日仏政府による共同議長のもと、ユネスコ事務局とそのオーガナイズによる専門委員会（ユネスコアドホック）のアドバイスにより、常時七八カ国のチームが、一九九三年以来国際調整会議に参加しながら修復活動を行っている。このフレームは日本政府が主導してつくったものであり、当初より日本政府専門家チームが主催したバイオンシンポジウムとそれを継承したユネスコアドホックによるアンコールチャーター取りまとめの過程に参加したほぼすべての国際専門家たちが議論を重ね、保存・修復の理念と技術において、ほぼ国際的水準を継承したものとされているといえよう。文字通り、保存・修復の国際協力のオリンピックであった、二国間協力では実現が難しい、世界遺産のオーセンティシテイの保存がはかられている。